

皮膚科のトリビア

203

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

宇宙と腎障害の関係

無重力環境下では骨量が減少し、リンが溶けだし血中で増加する。骨はFGF23というリン利尿ホルモンを分泌してリンの恒常性を維持するが、FGF23の上昇は腎障害を誘導することが知られている。さらに腎障害によってもリン恒常性の破綻が進み、それに伴い老化が加速したかのような病態が出現する。現在宇宙ステーションでこれらの仮説の検証が進められている。

一言コメント

「ヒトが宇宙で長期滞在した際に何がおこるか、健康で活動するには何が必要なのか。医師である古川聡氏の経験と身体の恒常性に関わる臨床医学の接点の講演で、めったに聞けない内容だった。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

小児のアトピー性皮膚炎では血中SCCA2がマーカーになる

アトピー性皮膚炎のバイオマーカーとしては、TARCが頻用されているが、年齢により基準値が異なる。それに対して血中SCCA2検査では、年齢による基準値の差がなく、とくに15歳以下の小児アトピー性皮膚炎の重症度の指標として有用なマーカーであることが示唆され、保険収載となった。

SCCA2は、serpinスーパーファミリーに属するセリンプロテアーゼインヒビターで、主に上皮細胞から産生される。Th2サイトカインのIL-4およびIL-13で気道上皮細胞を刺激した際に発現が上昇するタンパク質として同定され、応用された。

一言コメント

「せっかく保険適用になったのだが、経過による増減をみることに意義があると考えられるので、TARCでも問題はなさそう。ちなみに唾液、フケ、毛髪、爪などの混入があると高値になるので、検体の取り扱いに注意する必要があるとのこと。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

セリプロロールによる血管型Ehlers-Danlos症候群の合併症予防

血管型Ehlers-Danlos症候群(vEDS)は、責任遺伝子であるCOL3A1異常で生じる遺伝性大動脈結合組織障害疾患である。近年、β遮断薬の1つであるセリプロロールがvEDSの合併症(動脈解離、動脈瘤破裂、子宮破裂、腸管破裂、血気胸)を有意に減少させることが報告された。セリプロロールを3年間に服中の30歳代男性患者では、血管内皮の電顕にて小胞体の拡大、コラーゲン細線維の構造の保持は認められたが、III型コラーゲンの産生増加は認められなかった。

一言コメント

「 β_1 選択的で心血管系に作用し、心の拍動を抑制するという薬理作用によって合併症を抑えるが、コラーゲンに対する直接的な作用はなかったらしい。使い方はむずかしそうだ。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

歯周病は乾癬の粘膜病変の表現型か

乾癬患者は歯周病の罹患率が高く、健常人と比べると軽症の乾癬で1.66倍、重症の乾癬で2.24倍、乾癬性関節炎で3.48倍。さらに喫煙でリスクが上昇する。乾癬と同様に歯周病もIL-17と好中球が病態に関与すると考えられていて、歯周病は乾癬の粘膜病変の1つの表現型と考えられる。

一言コメント

「掌蹠膿疱症も歯周病との関連が深いといわれている。感染病巣としての悪化因子なのだろう。乾癬の発症には肥満やメタボリック症候群との関連も指摘されているので、乾癬患者の生活指導は本来であれば時間をかけて行う必要があると思った。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

compound blue nevusとは

20歳代、女性。小児期より顔面に青紫色の色素性病変があり、徐々に増大してきた。病理組織では真皮浅層にblue nevusの成分があり、表皮内にjunctional componentを有するがcompound nevusと異なり胞巣形成はない。表皮は過形成を示していてcompound blue nevusと診断した。小児から若年成人の顔に好発し、epidermotropic metastatic melanomaと間違われることがある。

一言コメント

「真皮内のメラニン色素に対する一種のepidermotropism、経表皮排泄と考えられているとのこと。ありそうで知らない疾患だった。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

小児の爪甲色素線条は平均6年で減少に転じる

60例の集計、後ろ向き観察研究。発症年齢の中央値は4歳、受診時年齢の中央値は8歳、爪甲最大幅に対する線条幅割合を算出し活動性の指標とした。半数は1年までに増大が停止、6年までには減少に転じていた。悪性化はみられず、小児の爪甲色素線条はwait & seeが妥当である。

一言コメント

「6年でピークアウトする、と伝えることができるようになった。こういう観察研究は開業医にとって大変ありがたい。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

薬疹における薬剤パッチテストの正しい方法とは

薬疹の原因薬剤の同定のために行う薬剤パッチテストの方法に関する文献から、エキスパートオピニオンをまとめた。

- ・ 薬剤のパッチテストはワセリンを基剤として10～30%の濃度に調整して行うことを推奨。
- ・ 目分量で薬剤が1/3～2/3の体積比になるようにワセリンと混合したものと、30%で調整したものを比較したが、91例中90例で陽性、陰性が一致した。
- ・ 重症薬疹ではパッチテストによる再発を避けるため被疑薬濃度を0.1%→1%→10%と段階的に調整して行うことを推奨。
- ・ ただしパッチテストで重症薬疹が誘発された報告は25編のレビューで1例のみ。

一言コメント

「結局目分量をワセリンに混合する、でよろしいということだろう。」